

# 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成19年 5月24日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0771100187		
法人名	株式会社エコ		
事業所名	グループホーム今泉		
所在地	〒963-4311 福島県田村市船引町今泉字台ノ前11-2 (電話) 0247-82-3819		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなゆうビル302号室		
訪問調査日	平成19年4月26日	評価確定日	平成19年6月8日

【情報提供票より】(平成19年3月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)17年 11月 1日
ユニット数	2ユニット 利用定員数計 18人
職員数	17人 常勤 14人, 非常勤 0人, 常勤換算 12.4人

### (2) 建物概要

建物構造	木造		
	2階建ての	1~2	階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	11,100円	その他の経費(月額)	9,000~冬季12,000円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(19,950円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200円		

### (4) 利用者の概要

利用者人数	17名	男性 5名	女性 12名
要介護1	2名	要介護2	7名
要介護3	4名	要介護4	4名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 82歳	最低 71歳	95歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	大方病院、博多歯科
---------	-----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

敷地面積800坪余りを有し、豊かな自然環境に恵まれた2ユニットのホームである。リビングの窓際から、満開の八重枝垂桜が見られ、利用者もゆったりと落ち着いて生活している。地域密着型サービスの理念を理解し、ユニット毎の利用者の状況にあった独自の理念を掲げている。理念の共有についても、申し送りの際に唱和するなどして、理念の実践に努めている。市町村合併により、行政との連携がスムーズに行われない面があり、運営推進会議の委員についての理解が得られず人選に苦慮し、会の設置が遅れたことは残念である。しかし、行政との連携強化のための情報提供や地域との交流を重視し、会報の発行や地域の行事に利用者・職員共に参加するよう努めている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価の意義を理解し、自己評価は職員全員で実施し、改善に取り組んでいる。ただ、ホームの表示が明確でないため、前回の外部評価でも指摘があったが、本部の統一的な見解を踏まえて手作りのリースなどの活用を検討している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5) 運営推進会議の重要性については、管理者はじめ職員は理解している。しかし、委員の人選がはかどらず、会の設置が遅れたため、外部参加メンバーの理解を得ながら、利用者の状況や地域の行事把握を行っているところである。しかし、今後は自己評価や外部評価結果を会議で公開し、一体的に改善に向けての取り組みを行うこととしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 利用者の家族等には、定期的に利用者の生活状況を手紙で知らせたり、金銭出納状況、病院診断記録等も同封し報告している。また、面会時には職員が気軽に話し合いをする機会を設ける配慮を行い、また、家族からの連絡ノートを十分活用するなどして、意見の反映に努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームとしては、地域との連携を深めるため、組(町内会)に入会するための働きかけを行っているところである。職員は神社清掃活動にも参加し交流に努めており、今後は清掃活動が可能な利用者の参加も検討している。市町村が合併して間もないため、区長、民生委員等との連携がまだ十分ではなく、地域密着型サービスの理解が得られるよう、地域への働きかけを行っている。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体の理念とは別に、ユニット毎に利用者の状態にあった独自の理念を作り上げている。また、地域密着型サービスとしての地域との交流やふれあいを柱に、住み慣れた地域での暮らしを支える理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の申し送りの際、理念を唱和し、共有を図っている。また月末に定期的開催するケース会議等でも理念についての話し合いをし、意思の統一を図っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者は町主催の文化祭や神社の清掃活動等に参加したりして、地域との連携に努めている。組(町内会)に入会を希望しているが、合併して間もないこともあり、関係者の理解が必ずしも十分でないため、地域の情報を集めるなどして、働きかけを行っているところである。	○	地域密着型サービスは、利用者が地域との連携を深めながら暮らせるようサポートするサービスである。そのため、地域の一員としての活動や役割を担えるよう、町内会等で地域の人たちに理解を深めることが必要である。今後とも行政への働きかけや、会報等で情報提供をするなど一層の取り組みを行ってほしい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義を職員全員で理解しており、管理者は改善事項や反省点を項目別に作成し職員に具体的に説明し、改善に向けて取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回の開催とはまだなっていない。会議の意義や役割についての理解が得られず、委員の人選について時間がかかり設置が遅れたようである。従って行政との一層の連携や参加メンバーの理解を得ながら、運営推進会議を効果的に活用することが望まれる。	○	参加者に運営推進会議の意義や活用について十分理解を得ながら、自己評価や外部評価結果についても説明し、意見や要望を基にサービスの質を高めるために活用してほしい。
6	9				
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月定期的に手紙を添えて家族への状況報告を行うとともに、金銭出納状況や病院の診断記録等についても同封し報告している。職員の異動状況についても文書で報告している。また、体調変化の受診については、その都度電話で伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には、家族2名が参加しており、意見等を気軽に言えるよう場面作りに配慮している。面会時にもスタッフが話し合いをする機会を設け、また家族からの連絡ノートを十分活用するなど意見の反映に努めている。家族会の設置についても、理解を得るよう働きかけを行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の理由により、職員の異動が見受けられるが、利用者への影響を最小限に防ぎ継続的なケアが可能となるよう心がけている。また、法人としても異動や離職を出来るだけ防止するよう検討を行っている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営規程で定めた研修を実施しており、受講者の研修報告書をもとに研修結果を共有し、職員間の質の格差をなくすように努めている。今後は運営面での工夫をしながら、年間の研修計画により職員の質の向上に努めることとしている。			
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人経営のグループホームに、業務応援の一環として職員が行くことはあっても、ケアサービスの向上や職員育成に役立つ実践的交流はされていない。	○	同業者との交流や相互訪問等を行い、職員育成に役立てるとともに、連絡協議会主催の研修会の事例検討会に参加するなどして他事業所の意見やケアを参考にし、質の向上に反映されるよう望む。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>						
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)	/			
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>						
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者との暮らしの中で、共に支えあう関係作りに配慮している。特に料理の作り方を学んだり、書の手ほどきを受けたり場面作りにも心がけ、和やかに協働の関係を築いている。			

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望に応じた支援に努めているが、一人ひとりの意向の把握が十分行われていないため、特に意思疎通が十分でない利用者に対しては、家族からの情報や日々の行動から察知しながら、本人の視点に立って希望や意向を把握することが必要である。	○	利用者の生活歴の把握を十分行い、理解するため時間をかけたアプローチが重要である。暮らし方の希望や意向を、センター方式の暮らしの情報等を活用しながら検討してほしい。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランはフェイスシートで目標や課題を設定し、職員会議で全員の意見を得ながら作成しているが、利用者の意向や状態の把握が、まだ十分でないため、計画に反映されたものとなっていないのは残念である。	○	施設サービス計画書により、ケアプランを作成しているが、利用者の生活歴や家族の意向等を踏まえた、実際のケアに活かされる、利用者本位のプラン作りを検討することが望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に1回のケース検討会議の際に計画の見直しを行っているが、利用者の日常的な状況が変化しているにもかかわらず設定した期間内での見直しの記述が、一部見られなかったのは残念である。新鮮な目で変化の兆しに対応した見直しをしてほしい。	○	地域密着型サービスは、利用者や家族等の状況変化に対応した計画の見直しが求められる。業務日誌等から状況変化を把握したり、家族からの意向を取入れた実情に即した計画の見直しを検討してほしい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	職員は利用者のかかりつけ医による受療状況を全て把握している。毎月1回の受診の支援と医師との連携を十分行い、家族にも受診状況を報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでは、重度者や終末期の利用者を対象にしていなため、重度化し継続的治療が必要な場合は、家族等に説明し施設等への入所を検討してもらっている。今後は、急変時等も考え、日々の健康管理等も含めて職員間で話し合いや対応についての統一的な方針が必要と思われる。	○	終末期における対応指針や家族の意思確認書等の作成を検討しているため、かかりつけ医やバックアップが可能な医療機関との連携を図り、関係者全員が統一的対応ができるよう努めてほしい。また、法人全体として看護師の配置についても検討してはどうか。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの保護については、職員間で具体的に確認している。個人情報保護や秘密保持について、法人と誓約書を取り交わすなど徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ利用者が望む過ごし方を支援している。ユニット毎の利用者は性格的にも生活のペースが合った方の組み合わせとなっており、職員は見守りながら柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好や身体状況に合わせた、味付けや調理方法を取り入れている。職員も一緒に食事を取り、利用者と一緒に楽しみながら支援している。また、食前には消毒液を使用するなど感染症対策に十分留意し、感染症の警戒態勢が解除するのを待って、利用者も食事の準備や片付けを職員と一緒に行うとのことであった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には、利用者の意向にそった入浴支援を行っている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	それぞれ多彩な趣味を持った利用者があり、得意分野を活かした場面作りを配慮しながら利用者の生きることへの支援につなげている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	散歩、買い物、図書館等、利用者の希望に合わせて外出支援を行っている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や居室には鍵はかけられていない。玄関にチャイムがあり、出入りの確認はできるが、チャイムに頼ることなく、職員は利用者を見守りながら、一緒に生活している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年間3回、消防署の指導・協力により夜間想定避難や消火器の使い方を含めて訓練に努めている。ただ、災害に備えた非常用の食料や備品等は整備されていない。	○	今後とも地域の協力体制を整備しながら、定期的実践的訓練を行うとともに、災害時に備えて食料や備品等を準備しておくことが必要である。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者毎に生活チェック表に食事や水分摂取量を記録しており、その方に合った摂取量を職員が意識しながら個別に支援している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々とした生活空間となっており、窓際からは木々が覗かれ、季節感を味わうことができる。室内の音も気にならず、利用者は落ち着いた環境でゆったりと生活している。季節的に、入浴に菖蒲湯や柚子湯をとり入れているとのことである。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、馴染みの物品等が置かれ、その人らしく過ごせるような部屋になっている。		

※  は、重点項目。



3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム 今泉

記入担当者名 吉田 正三

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。